

# 埼玉県花植木農業振興方針



埼玉県

令和3年3月



# 一 目 次 一

1	花植木農業振興方針策定の目的	2
2	計画期間	2
3	埼玉県における花植木生産の状況	3
4	花植木生産を巡る現状	4
5	花植木農業振興に関する課題と取組の方向	7
6	目標	10
	参考資料	11

## 1 目的

大消費地である首都圏に位置する本県は、日照時間が長く自然災害が少ないなど恵まれた自然条件を背景に花植木の生産が盛んに行われている。平成30年の産出額は、花きは160億円、植木類は15億円で、全国第4位の産地となっている。

総務省「家計調査」によると1世帯当たりの切花の購入金額は平成9年をピークに減少に転じている。同様に、鉢花や花壇苗を含む園芸品・園芸用品の購入金額も平成11年をピークに減少に転じている。この要因としては景気の低迷のほか、若い世代を中心に花を楽しむ生活から離れていること等が考えられる。

花き経営をとりまく環境は、消費の落ち込みに加えて資材費の高騰などにより生産費が増大するなど、大変厳しい状況となっている。

植木類においても、公共需要の減少、生活様式や住宅事情の変化などにより需要は減少しているが、街の再開発や大規模商業施設、マンションなど集合住宅の建設に伴う民間需要やこれまでにない特徴を持った植物の利用などライフスタイルや価値観の変化による需要もでてきた。

このような中、令和2年の新型コロナウイルス感染症拡大による冠婚葬祭等のイベントの中止や、生花店等の営業自粛により、さらに花き需要は大きく低迷した。

その一方、テレワーク等の普及により、在宅時間が増加したことから、自宅での花き需要は高まっている。

国では「花きの振興に関する法律（平成26年法律第102号）」に基づき、令和2年4月に「花き産業及び花きの文化の振興に関する基本方針（以下「国方針」という。）」の見直しが行われたところである。

こうした花植木産業を巡る情勢や国方針を踏まえ、本県花植木産業の今後の健全な発展を目的として、花植木生産者の経営安定、流通コストの低減、花文化の普及・定着、輸出促進等の措置を講ずる指針となる「埼玉県花植木農業振興方針」を策定するものである。

## 2 計画期間

本方針の計画期間は令和3年度から令和7年度とする。

### 3 埼玉県における花植木生産の状況

#### (1) 切花

球根切花の生産は深谷市などで盛んで、特にゆりは全国第3位、チューリップは全国第2位の産出額を誇っている。その他、キンギョソウが川越市や川島町で、宿根アスター（クジャクソウ）の生産が神川町などで盛んである。

枝物は、川口市やさいたま市、小鹿野町、東秩父村などで生産が盛んで、花桃、桜、ボケ、レンギョウ、ヒペリカムなど多様な品目が生産されている。

#### (2) 鉢物・苗物

鉢物は、全国第2位の産出額を誇り、深谷市や鴻巣市でカランコエやシャコバサボテンなどが、本庄市や上里町などではポインセチアやハイドラングリアなどの生産が盛んである。

苗物は、全国第1位の産出額を誇り、鴻巣市では古くから大きな産地が形成されているほか、川越市やさいたま市、東松山市などでも産地が形成されている。

なお、プリムラ類やパンジーの産出額は全国第1位、洋ラン類、花木類は全国第3位を誇っている。

#### (3) 植木・盆栽類

植木生産は、江戸時代初期に安行村赤山（現在の川口市）で始まったとされる伝統産業で「安行の植木」として有名である。

その後、県内各地で生産が盛んに行われるようになり、伝統に培われた独特の仕立技術や高度な栽培技術により、全国に流通している。

盆栽は、さいたま市、川口市、深谷市などで生産が盛んで、国内はもとより、EUやアジア向けなど本県の主要な輸出品目の一つとなっている。

切花の主な生産品目と産地

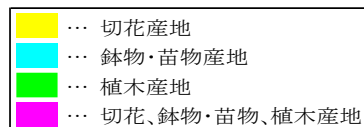
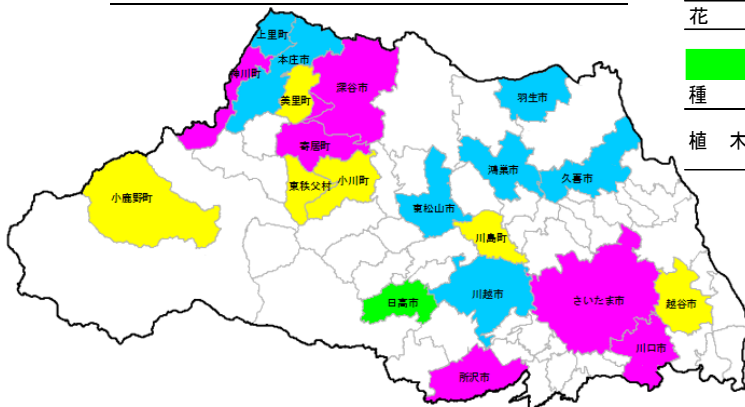
種	類	産地（市町村）
ユ	リ	類 深谷市、川口市、さいたま市
チューリップ		深谷市、越谷市
宿根アスター		神川町、小川町、美里町
キンギョソウ		川越市、川島町
洋らん		全県域
枝物		川口市、さいたま市、小鹿野町、東秩父村

鉢物・苗物の主な生産品目と産地

種	類	産地（市町村）
プリムラ	類	鴻巣市、東松山市、川越市
パンジー		川越市、鴻巣市、羽生市
洋らん		全県域
カランコエ・シャコバサボテン		深谷市、鴻巣市
シクラメン		さいたま市、久喜市、鴻巣市
ポインセチア		本庄市、上里町、神川町
花木類		寄居町

植木の主な生産品目と産地

種	類	産地（市町村）
植木類	全般	さいたま市、深谷市、川口市、所沢市、日高市、寄居町



## 4 花植木生産を巡る現状

### (1) 花植木生産について

#### ア 生産技術

花きの生産は近年横ばい傾向であるが、植木では公共需要の縮減や住宅事情の変化などの影響で大きく減少している。

新しい商品開発のため、生産者による育種や国内外の種苗展示会での情報収集などの取組により、新しい品目や品種の導入が進んでいる。

枝物や植木等伝統品目の産地では、生産者の高齢化、生産量の減少に伴い、枝折や根巻き等、伝統技術の継承が危ぶまれている。

温暖化等の気候変動に伴い花芽分化が遅れる等の生理障害や、アザミウマ類などの新たな病害虫が発生し、被害が拡大している。

#### 【課題】

- ・ 高品質生産技術の確立と技術の継承
- ・ 温暖化等の気候変動に対応する技術の導入

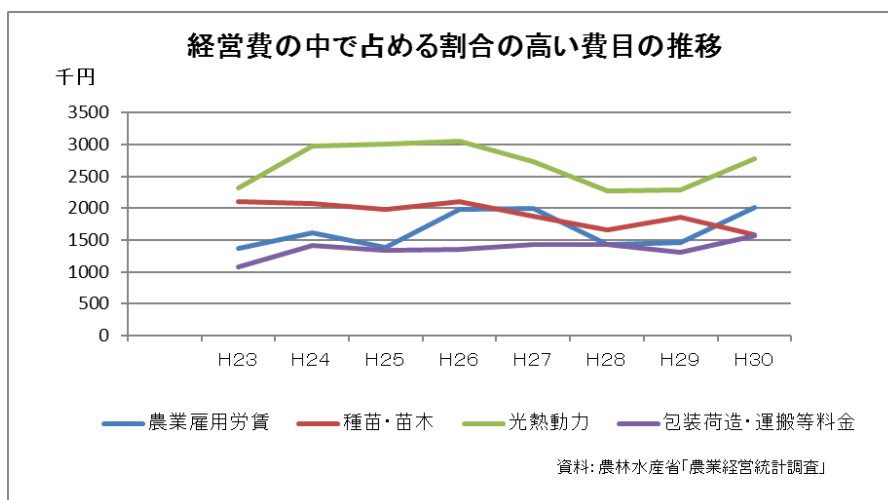
#### イ 経営

経営費では、原油価格変動による資材や燃油の高騰、人件費上昇の影響により、光熱動力費、雇用労賃、包装荷造・運搬料金等が増加傾向にある。

苗物や鉢物ではトラック輸送が中心であるが、ドライバー不足や他の業種との競合により、輸送費が高騰するなどの影響が出ている。

コスト低減や省力化のため、統合環境制御装置等を活用したスマート農業技術の導入が期待されている。

近年多発する自然災害や新型コロナウイルスなどの感染症のまん延といった不測の事態への備えが求められている。



#### 【課題】

- ・ 生産・流通コストの低減
- ・ 自然災害等のリスクへの備え

## (2) 花植木の流通・消費について

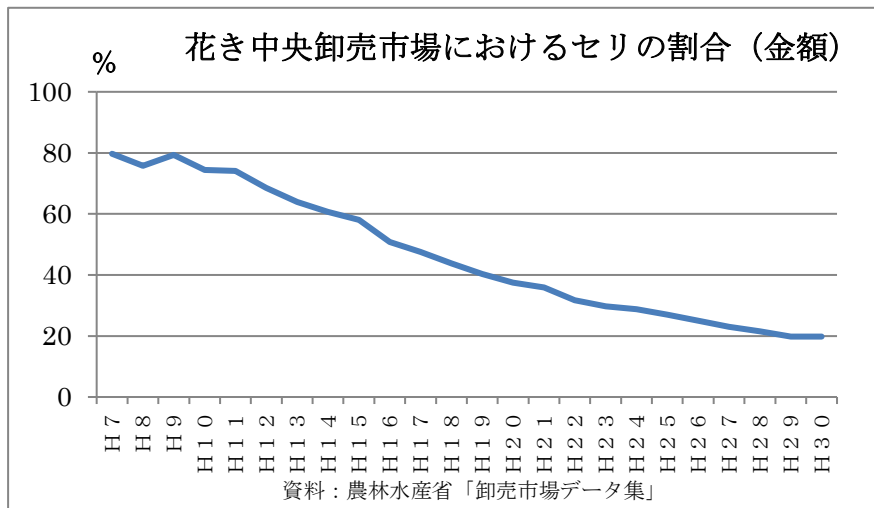
### ア 流通

花きの流通は、その8割が卸売市場を經由しているが、予約相対取引が増加し、市場でのセリによる取引の割合は約2割となっている。

中央卸売市場の取引では、一般小売店の割合が徐々に減少し、仲卸から一般小売店への販売金額割合が大幅に減少している。一方、スーパー、コンビニエンスストア、加工業者等多様な業種による花き販売への参画が進んでおり、対応が求められている。

一部の販売店では「日持ち保証」の取組が行われている。

植木類の流通は、工事発注者や造園事業者との直接取引や直売などが流通の主体となっている。これまで大規模な公共需要に対応し、樹種、規格を揃えて大量に納品、施工するスタイルが中心であったが、近年は、販売単価を確保するため、ニーズの多様化を踏まえ、特徴のある樹種に絞り込んだ生産・販売促進を行って、新たな販路を広げる動きがでてきている。



#### 【課題】

- ・多様な販路に対応した流通体系の確立

### イ 個人需要

家庭における花きの購入金額は長年にわたり徐々に減少している。世代別にみると、消費の主体は中高年世代で、若年層の消費が少ない傾向にある。

切花では彼岸、お盆、正月などに多く消費され、鉢物・花壇苗等は、春・秋の園芸シーズンに消費が集中しているなど、年中行事での消費が中心で、嗜好的な消費は少ない状況である。

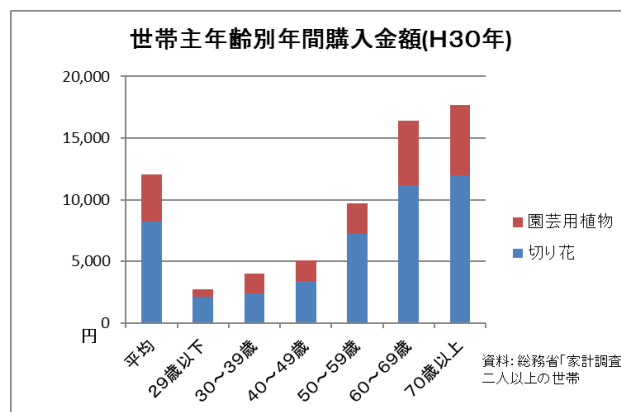
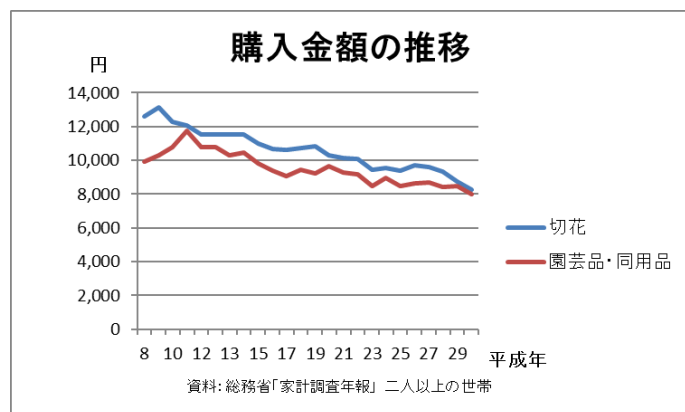
植木類では、植栽スペースの減少や植栽後の維持管理などにコストがかかるイメージが強いこと、伝統的な仕立物が現在の住宅に合っていないことから、消費に結びついていない傾向にある。

花文化を普及する取組として花植木関係者による花育活動が行われている

が、今後、国際園芸博覧会等のビッグイベントを契機に地域における花飾りの気運が高まることが期待されている。

ストレスや緊張を和らげる花の効果に対し注目が高まっており、企業での花を飾る取組や、福祉施設等における園芸体験の取組による消費の拡大が期待される。

新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、在宅時間が増加したことにより、ガーデニング等の家庭での花き需要が高まっている。



**【課題】**

- ・消費者ニーズに即した商品の開発
- ・花文化や花植木類の啓発による需要の拡大

**ウ 業務需要**

新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、冠婚葬祭等のイベント需要が激減している。

花きでは、企業と産地との結びつきが乏しく、求められる商品の特性、流通経路、需要量等の情報を産地が把握できていない。

植木類では、生産に時間がかかり、流通も複雑なことから、リアルタイムの業務需要の情報が生産者へ伝わりにくく、将来の需要の予測も難しい。

業務需要の多いグランドカバー植物等は供給量が不足するなど、需給のアンバランスが生じている。

**【課題】**

- ・業務需要の把握と情報の発信

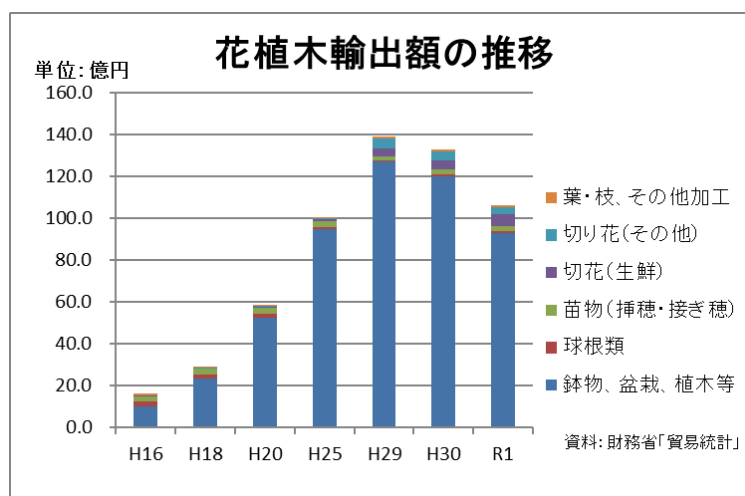
**エ 輸出**

令和元年の花きの輸出額は全国で約100億円となっている。

本県の輸出花植木の大部分は盆栽・植木で、令和元年の輸出検査実施数は、盆栽48,519鉢、植木は27,659本である。



増加傾向にある花植木の輸出を振興するため、全国花き輸出拡大協議会が中心となって取組を強化している。



**【課 題】**

- ・ 輸出に向けた取組の拡大

## 5 花植木農業振興に関する課題と取組の方向

### (1) 安定した花植木経営の確立

#### ア 高品質生産技術の確立と技術の継承

##### (ア) 課題の内容

- ・ 年間を通して高品質で安定した生産技術の開発
- ・ 後継者への伝統技術の継承

##### (イ) 取組の方向

- ・ 生産者と連携し産地に適した栽培技術の確立を図り、研修会や情報提供を通じて技術の導入を促進する。
- ・ 枝物や植木など伝統品目の栽培技術について、技術研修や情報提供等を通じて次代への継承を推進する。

#### イ 温暖化等の気候変動に対応する技術の導入

##### (ア) 課題の内容

- ・ 温暖化等の気候変動の影響による生理障害や新たな病害虫に対応する生産技術、防除技術の導入

##### (イ) 取組の方向

- ・ 温暖化等の気候変動が花植木生産に与える影響について検討し、遮熱資材やミストを活用した温度管理技術の確立や、LED 補光の導入等を推進する。
- ・ 気候の変化により新たに発生、増加する病害虫についての総合的病害虫管理 (IPM) 等防除技術の導入を促進する。

## ウ 生産・流通コストの低減

### (ア) 課題の内容

- ・スマート農業技術等の導入によるコスト低減
- ・効率的な輸送についての検討

### (イ) 取組の方向

- ・生産コストの削減や省力化を図るため、統合環境制御装置等を活用したスマート農業技術や、ヒートポンプ、変温管理技術（EOD - heating）等の省エネ技術、その他の新技術の導入を促進する。
- ・デジタル技術の活用による新たな花植木産業への変革（デジタルトランスフォーメーション（DX））を推進する。
- ・他産地との連携による往復便の利用や他品目との混載、ハブ機能のある流通拠点整備等、幅広い視野で物流の効率化について検討を進める。

## エ 自然災害等のリスクへの備え

### (ア) 課題の内容

- ・農業保険等の普及促進

### (イ) 取組の方向

- ・自然災害等による収入減少を補填する収入保険や農業用ハウスの損失を補填する園芸施設共済等の加入促進・利用拡大の取組を進める。

## (2) 需要の拡大と販路の開拓

### ア 多様な販路に対応した流通体系の確立

#### (ア) 課題の内容

- ・量販店やネット販売等、新たな販路への販売拡大
- ・花持ちの良い商品の供給

#### (イ) 取組の方向

- ・物流方法の改善により、新たな販路開拓を促進する。
- ・鮮度保持技術の開発、導入を推進するとともに、生産から流通・販売に至るまでのコールドチェーンの確立等を促進する。
- ・生産者と小売店等とのオンライン商談システムの導入やネット販売の促進等のデジタル化を推進する。

### イ 消費者ニーズに即した商品の開発

#### (ア) 課題の内容

- ・予約相対取引で「注文がとれる魅力的な商品」の生産

#### (イ) 取組の方向

- ・「注文が取れる魅力的な商品」の生産に向けて、消費者ニーズを把握し販売業者への売り込みを強化するための商談会等の開催を推進する。
- ・生産者による新商品開発（加工商品を含む）と知的財産の活用を促進する。
- ・新たな商品の開発に必要な技術を確立する。

## ウ 花文化や花植木類の啓発による需要の拡大

### (ア) 課題の内容

- ・ 将来における消費の中心となる子供や若年層の消費拡大
- ・ 家庭や地域、企業における花植木の活用、需要拡大
- ・ 花ギフトや花文化の振興による需要拡大
- ・ 産地としての知名度向上やブランド化による需要拡大

### (イ) 取組の方向

- ・ 花植木に親しむ機会として、花育、緑育の実施を促進する。
- ・ 国際園芸博覧会等のビッグイベントへの参加や緑化講座の開催等により、花植木の効用や緑化の必要性について啓発し、地域、企業等における花の活用や緑化を促進する。
- ・ 展示会やSNSを活用した情報発信等により、生け花やフラワーデザイン、ガーデニングなど自宅での花飾りを推進し、日常生活における花文化の定着を図る。
- ・ 「母の日」等の既存の物日に加え、「フラワーバレンタイン」や「いい夫婦の日」、「ミモザの日」等の新たな物日のPRを通じて、花ギフトの文化の普及を図る。
- ・ 芳香シクラメン等のブランド品目を積極的にPRし、花の産地としての認知度向上を図る。

## エ 業務需要の把握と情報の発信

### (ア) 課題の内容

- ・ 業務需要で求められる商品の特性、流通経路、需要量等の情報把握によるニーズに対応した生産、販売
- ・ 公共事業等を設計、施工する企業に対する、花植木の特徴や産地の生産情報の提供
- ・ 造園技術の向上や緑化の推進に係る人材の育成

### (イ) 取組の方向

- ・ 公共需要や業務需要に対応する品目選定や都市緑化に必要な壁面緑化や屋上緑化等の植栽・管理技術の開発や普及を推進する。
- ・ 産地と業務需要に携わる企業との連携を進めるため、生産者等による展示会や産地見学会の開催を推進する。
- ・ 県産花植木の特徴や技術、生産規模等の産地情報を発信するため、SNS等の活用を促進する。
- ・ 品種の特徴や利用方法などについて、植栽や造園の参考にできる植木類展示園を活用して、需要拡大に向けた啓発を行う。
- ・ 造園技術の向上や地域の緑化推進を担うリーダーを育成するため、必要な知識や技術が習得できる研修会等の開催を推進する。

## オ 輸出に向けた取組の拡大

### (ア) 課題の内容

- ・輸出検疫に合格するための、センチチュウ等防除技術の確立
- ・輸出拡大に向けた海外での需要や輸出条件などの情報収集及び魅力の発信

### (イ) 取組の方向

- ・センチチュウ対策技術について検討し技術の普及を図ることで、検疫合格率を高め、輸出に取り組みやすい環境づくりを推進する。
- ・海外における需要動向や販路、検疫条件等の情報を収集し、生産者へ提供することにより輸出の取組を促進する。
- ・国際園芸博覧会への出展等を支援し、県産花植木の魅力を海外に発信する。

## 6 目標

本方針に基づき花植木農業の振興に総合的に取り組むことで、花き産出額を過去5年間(平成27年～令和元年)の平均169億円から、令和7年には174億円を目指す。

目標年度	令和7年
目 標	花き産出額 174億円

## —参考資料—

## 1 埼玉県の花植木生産の全国順位

令和元年の花きの産出額は152億円（全国第5位）で、平成30年の植木類の産出額は15億円（全国第7位）です。

### 農業産出額と全国順位（花き類は令和元年産、植木類は平成30年産）

	農業産出額（億円）と全国順位						
	1位	2位	3位	4位	5位	6位	7位
花き類	愛知 545	千葉 174	福岡 168	静岡 164	埼玉 152	長野 154	茨城 132
植木類	千葉 54	福岡 39	愛知、三重 35		茨城 31	東京 14	埼玉 15
花植木計	愛知 580	千葉 228	福岡 207	埼玉 167	静岡 149	長野 139	鹿児島 124

資料：花き(切花類・鉢もの類・花壇用苗もの)は農林水産省統計部「生産農業所得統計」

植木類(花木類・芝・地被植物類)は農林水産省生産局「花木等生産状況調査」

### 出荷数量と全国順位（令和元年産、植木のみ平成30年産）

	単位	出荷量と全国順位					
		1位	2位	3位	4位	5位	埼玉県
切花類	万本	愛知 61,650	沖縄 28,950	福岡 18,570	静岡 18,250	鹿児島 15,820	17位 6,520
鉢もの類	万鉢	愛知 5,360	埼玉 1,970	岐阜 1,520	静岡 1,350	千葉 936	2位 1,970
花壇用苗もの	万本	埼玉 5,040	愛知 4,190	千葉 3,810	兵庫 2,710	茨城 2,600	1位 5,040
植木類	万本	福岡 2,741	三重 1,043	愛知 673	長崎 621	千葉 544	10位 101

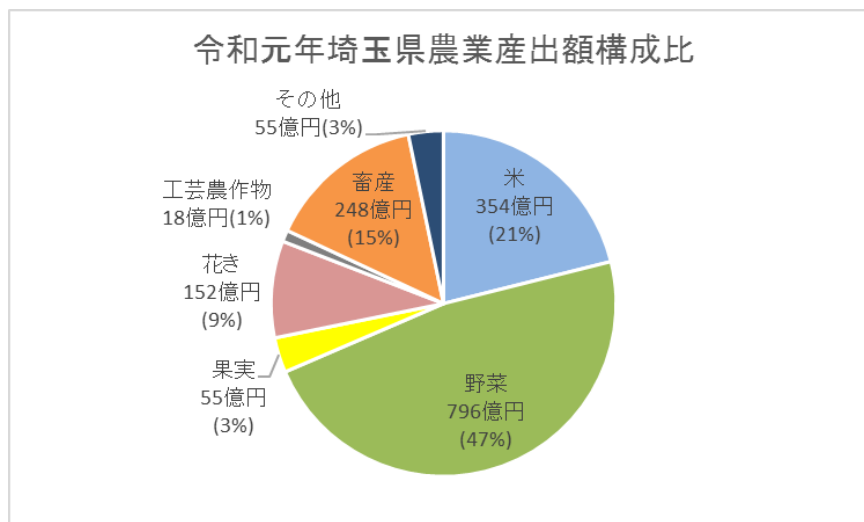
※ 品目ごとに単位が異なるため、「花き計」は算出できない。

資料：花き(切花類・鉢もの類・花壇用苗もの)は農林水産省統計部「生産農業所得統計」

植木類(花木類・芝・地被植物類)は農林水産省生産局「花木等生産状況調査」

## 2 本県農業における花き生産の地位

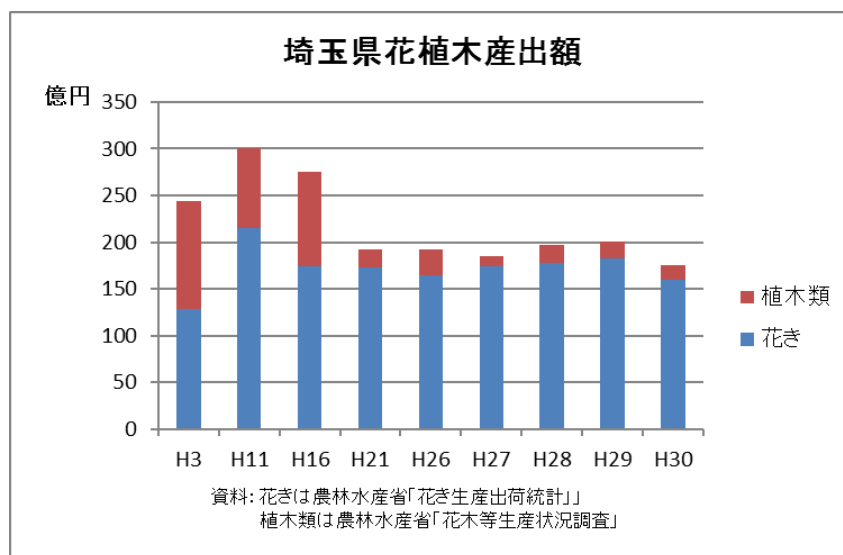
令和元年の花きの産出額は本県の農業産出額（1,678億円）の9%で、農業の一翼を担う品目となっています。



### 3 本県花植木生産の状況

花きの産出額は、平成11年の216億円をピークにやや減少しましたが、近年は横ばいの傾向です。

植木類の産出額は高度経済成長期からバブル期にかけて増加しましたが、景気低迷とともに公共需要、個人宅の造園需要が減少し、ピーク時の20%以下となっています。



花きの出荷量は、10年前に比べて切花で20%、鉢物で30%、苗物で20%程度減少しています。

#### 埼玉県及び全国の花き出荷量

	埼玉県			全国		
	切花	鉢物	苗物	切花	鉢物	苗物
H19	87,600	36,300	55,500	4,934,000	301,000	803,700
H20	87,200	30,900	64,700	4,734,000	284,000	777,200
H21	84,000	29,700	59,700	4,551,000	268,800	775,000
H22	84,200	27,600	52,700	4,351,000	261,200	721,700
H23	84,500	26,700	51,400	4,164,000	253,900	708,600
H24	81,300	26,300	52,500	4,069,000	247,300	714,500
H25	80,800	27,200	54,500	4,066,000	244,100	710,900
H26	75,500	25,600	53,400	3,949,000	233,600	692,400
H27	72,700	25,600	54,300	3,867,000	229,600	666,000
H28	77,200	25,400	56,100	3,781,000	226,500	649,300
H29	74,400	24,300	55,300	3,704,000	221,200	609,600
H30	68,800	22,100	53,800	3,534,000	209,600	598,400
R01	65,200	19,700	50,400	3,482,000	205,000	579,000
H21年対比	77.6	66.3	84.4	76.5	76.3	74.7

資料：農林水産省「花き生産出荷統計」

